

# 第10回 雪明・新潟眼科フォーラム

(日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業No.25182)

Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum

日時: 令和5年2月19日(日) 9:00~15:15  
場所: 『朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター』2階 スノーホール  
〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL:025-246-8400  
専門医単位: 現地:1.5単位、Web:1単位  
会費: 現地: 医師:3,000円 レジデント・視能訓練士:1,000円  
Web: 医師:3,000円 レジデント・視能訓練士:無料

## プログラム

Program

9:00~	開会の挨拶 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 福地 健郎先生
【第一部】	座長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 准教授 赤木 忠道先生
9:05~9:55	《1》小児眼科》 『絶対に押さえておきたい!小児の近視抑制治療』 筑波大学医学医療系眼科 准教授 平岡 孝浩先生
9:55~10:45	《2》腫瘍・眼形成》 『目を護るための眼形成再建外科』 オキュロフェイシャルクリニック大阪 院長 三村 真士先生
10:45~10:55	(休憩)
	座長: 新潟大学医歯学総合病院眼科 講師 寺島 浩子先生
10:55~11:45	《3》AI》 『加齢黄斑変性のディープフェノタイプ研究』 京都大学大学院医学研究科眼科学 特定講師 三宅 正裕先生
11:45~12:35	《4》網膜・硝子体》 『黄斑手術の最近の話題』 岡山大学学術研究院医歯薬学域 眼科学 教授 森實 祐基先生
12:35~13:35	(昼食休憩) ※お弁当をご用意いたします。
【第二部】	座長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 福地 健郎先生
13:35~14:25	《5》緑内障》 『眼科専門医が知っておきたい緑内障診療Update 2023』 埼玉医科大学 眼科 客員教授・小江戸眼科内科 院長 庄司 拓平先生
14:25~15:15	《6》角膜・感染症》 『細菌性角膜炎に対する抗菌薬の使い方』 群馬大学医学部附属病院眼科 准教授 戸所 大輔先生
15:15~	閉会の挨拶 新潟大学医歯学総合病院 病院准教授 松田 英伸先生

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

# 第10回 Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum 雪明・新潟眼科 フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 No.25182



開催日時

令和5年 2月19日(日) 9:00~15:15

開催場所

「朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター」2階 スノーホール

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL:025-246-8400

事務局

新潟大学大学院医歯学総合研究科 眼科学分野 事務局内

雪明・新潟眼科フォーラム事務局 TEL:025-227-2296 FAX:025-227-0785

〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

## 第10回 雪明・新潟眼科フォーラム



# ごあいさつ

新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授

**福地 健郎**



謹啓

2014年に開始した雪明新潟眼科フォーラムは今回で第10回を数えることになりました。現在、再び第8波による急激な感染者増の状況にある一方で、全国的に移動は解除、また集会への入場者制限も解除、社会的活動は本格的に再開されてきています。今回はいよいよ3年振りの現地開催に加えてハイブリッド開催で、従来の午前・午後、計6演題のフルエントリースタイルに戻す予定で準備を進めています。この会のプログラムは緑内障、網膜・硝子体、角膜を基本3領域として、他の3領域に関しては会終了後のアンケート結果等を参考に、世話人会で候補を推薦し構成することを基本としています。今回もこれまでの雪明・新潟眼科フォーラムと同様に、眼科の各分野でご活躍の若手リーダーの先生方にお集まりいただくことができました。各領域の最前線の話題を提供していただけるものと楽しみにしております。特に近視予防とAIは、眼科領域の最新のトピックスというだけでなく、今後の展開から目を離すことのできない大変に重要な話題です。じっくり拝聴いたしたいと思います。この会が、例年と同様に先生方の眼科の新たな発見の機会になってくれることを期待しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

謹白

## 絶対に押さえておきたい!小児の近視抑制治療

筑波大学医学医療系眼科 准教授 **平岡 孝浩 先生**



略歴

1993年 筑波大学医学専門学群 卒業	2005年 筑波大学大学院人間総合科学研究科眼科 講師
1993年 筑波大学附属病院眼科 医員	2020年 筑波大学医学医療系眼科 准教授
1999年 茨城西南医療センター病院眼科科長	現在に至る
2002年 筑波大学臨床医学系眼科 助手	

世界的に近視人口が急増している。将来的なQOV・QOLを守るという観点のみならず、医療経済的な側面からも社会へ及ぼす影響は極めて大きく、予防医療の重要性が叫ばれるようになってきた。つまり、学童期から積極的に介入して近視進行抑制を実施することが国際的に推奨されている。

近視進行抑制戦略として、遺伝・環境的なアプローチのほか薬物と光学的アプローチが挙げられる。近視遺伝子治療の実現は未だ見えてこないが、強度近視を早期に発見できる可能性が示唆されている。環境因子としては屋外活動の有効性が広く知られるようになり、台湾ではTian-Tian 120 outdoor programという政策の導入により学童近視の減少を実現した。また光学アプローチに関しても着実に進化しており、眼鏡ではDIMSやSTELLESTなど近視性デフォーカスを形成する光学デザインが開発され、RCTにおいて有望な結果が確認されている。オルソクトロジーの眼軸長伸長抑制効果は極めて多くの研究で確認されているが、最近では長期データも紹介されるようになり、国際的に広く普及している。多焦点CLに関しても、FDA承認やCEマークを取得したレンズが近年急増している。低濃度アトロピン点眼薬も広く使用されるようになり、近年では有効濃度の更なる検証や光学的手法との併用効果が検討されている。

本講演では、基礎・疫学・臨床研究を含め代表的な近視研究をレビューするとともに、近視進行抑制法のカッティングエッジを解説する予定である。また明日から導入できる豆知識に関しても触れてみたい。

## 目を護るための眼形成再建外科

オキユロフェイシャルクリニック大阪 院長 **三村 真士 先生**



略歴

2002年 大阪医科大学 医学部 医学科 卒業	2020年 大阪医科大学 眼科 講師
2007年 大阪回生病院 眼科 医長	2021年 大阪医科薬科大学 眼科 非常勤講師
2014年 大阪医科大学 眼科 助教	2021年~ 東邦大学医療センター佐倉病院 眼科 非常勤講師
2015年~2017年 カリアフォルニア大学サンディエゴ校眼科 (眼形成再建外科)国際フェロー	兵庫医科大学 眼科 非常勤講師
	2022年~ オキユロフェイシャルクリニック大阪 院長

近代眼科は、IOLの開発やフェイクマシ、硝子体手術機器の高性能化、OCTを代表とする画像診断の発展とともに歩んできており、インテリジェンスの高い多くの先輩科学者により、眼球自体の診療は飛躍的な進歩を遂げてきた。しかし一方で、QOLを維持するための視機能(QOV)を維持するには、内眼機能のみでは事足りない。つまり、眼付属器の機能なくしては、QOVは保たれない。

この眼付属器の外科治療に当たるのが眼形成再建外科である。眼付属器の外科治療を介して、眼球の機能を最大限活用する環境を提供することで、QOVの向上に貢献することが眼形成再建外科医の使命であり、ひいては社会への貢献を目指している。

本講演ではそのような眼形成再建外科の役割について、時間の許す限りディスカッションしてみたいと思う。

## 加齢黄斑変性のディープフェノタイプ研究

京都大学大学院医学研究科眼科学 特定講師 **三宅 正裕 先生**



略歴

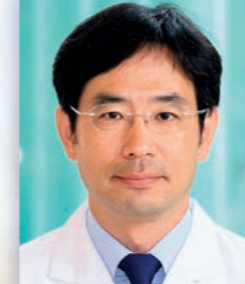
2006年 大阪市立大学医学部卒業	2015年 厚生労働省 保険局医療課 専門官
神戸市立中央市民病院 初期研修医	京都大学大学院 修了
2008年 京都大学医学部附属病院 眼科修練医	2016年 日本医療研究開発機構 臨床研究課 課長代理
天理よろづ相談所病院	ハーバード公衆衛生大学院 修了
2011年 京都大学大学院	2017年 京都大学医学部附属病院 特定助教
2014年 Genome Institute of Singapore 客員研究員	2021年 京都大学医学部附属病院 特定講師

数年前に医療分野においてもAIがブームとなり、その後様々な学会でAIに関する講演が組まれていることから、AIという食傷気味の方も多だろう。実際、種々のデータを用いてAIを作ったという研究報告は溢れかえっている。しかしながら、AIの方向性は確実にこれまでと比べて変わってきている。具体的には、単に大量の画像を使って高精度のAIを作ったという報告ではなく、実際に社会実装してみたらどうだったかという教訓や、うまく社会実装するためにはどういった調整が必要かといった、社会実装に関連する論文が増えているほか、AI自体を単なるツールとして使用している論文も増加している。AIモデルの作成は標準化・簡略化され、プログラミングなしでディープラーニングモデルを作成する「コードフリー」の有用性についても報告されている。

本講演では、AIに関する基本的な部分から最近のトレンドを紹介するとともに、加齢黄斑変性に対して教師なし機械学習を適用した自験例についても紹介する。

## 黄斑手術の最近の話題

岡山大学学術研究院医歯薬学域 眼科学 教授 **森實 祐基 先生**



略歴

1996年 岡山大学医学部 卒業	2013年 岡山大学病院 講師
2006年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助教	2018年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授
2008年 米国ハーバード大学マサチューセッツ眼科耳鼻科病院 研究員	2020年 岡山大学学術研究院医歯薬学域 眼科学 教授

近年、極小切開硝子体手術システムや広角観察システムの進歩と共に、硝子体手術の安全性が増し、黄斑疾患に対する硝子体手術の適応は拡大している。一方で、手術システムが進歩した今日でも解決できていない問題が明らかになってきており、その問題を解決すべく、新しい画像診断技術を用いた病態の解明や様々な術式の改良が試みられている。本講演では、岡山大における試みをご紹介します。黄斑手術の最近の話題をご提供する。

## 眼科専門医が知っておきたい緑内障診療Update 2023

埼玉医科大学 眼科 客員教授・小江戸眼科内科 院長 **庄司 拓平 先生**



略歴

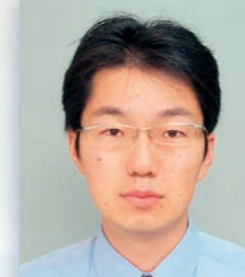
2002年 防衛医科大学校医学部卒業	2016年 米国UCSD ハミルトン緑内障センター 客員研究員
2004年 陸上自衛隊大久保駐屯地医官・千原眼科医員	2019年 埼玉医科大学 眼科 准教授
2008年 防衛医科大学校病院 専門研修医	2022年 埼玉医科大学 眼科 客員教授・小江戸眼科内科 院長
2012年 埼玉医科大学 眼科 講師	

本邦の緑内障診療は画像技術の進歩や新たな点眼薬の上市、手術機器の開発により、今世紀に入ってから大きく変化した。この変化に伴い2003年に初版発行された緑内障診療ガイドラインも2022年には第5版が発表された。今回の改定では初めてMedical Information Distribution Service (Minds)診療ガイドライン作成マニュアルに則り作成が試みられた。具体的には、より重要な臨床的課題について「クリニカルクエスト(CQ)」を提示してシステマティックレビューを行われ、より明確なガイドラインとなったことが挙げられる。第4版で新たに言及されたエビデンスに関して、「推奨の強さ」と「根拠の強さ」を踏襲し、より具体的な臨床課題についての記載が増え、実践的な内容となっている。

本講演では従来の緑内障診療ガイドラインと最新の緑内障診療ガイドラインの変化を確認し、最新のガイドラインのポイントとを概説するとともに、ガイドラインを踏まえた日常の緑内障診療のポイントについて症例を供覧しながらご視聴の先生方と一緒に考察し、本邦における現時点での緑内障治療戦略について解説する。

## 細菌性角膜炎に対する抗菌薬の使い方

群馬大学医学部附属病院眼科 准教授 **戸所 大輔 先生**



略歴

1997年 群馬大学医学部卒・群馬大学眼科入局	2010年 マサチューセッツ眼科耳鼻科病院
1999年 佐久総合病院眼科	2011年 群馬大学医学部附属病院眼科 助教
2001年 群馬大学医学部附属病院眼科	2015年 群馬大学医学部附属病院眼科 講師
2008年 群馬大学医学部附属病院眼科 助教	2017年 群馬大学医学部附属病院眼科 准教授
2009年 スケベンス眼研究所	

細菌性角膜炎が疑われた場合、キノロン系を中心とする抗菌薬の点眼が初期治療として行われます。しかし、同じ処方してもすみやかに改善が得られることもあれば思いがけず苦戦を強いられることもあり、治療に対する反応はさまざまです。治療開始前に検体を採取し起炎菌を同定するのが理想ですが、設備が整っていない、前医ですでに治療が開始されているなどの理由で起炎菌が同定できない場合も少なくありません。実際に治療を行うためには、3系統の抗菌薬(キノロン系、セフェム系、アミノグリコシド系)の特徴を理解し、使いこなす必要があります。

抗菌薬の投与で改善しない場合、もしくは既往歴や臨床所見からウイルスや真菌やアcantアメーバによる角膜炎が疑われる場合は、鏡検、培養、PCRなどの検査が可能な専門施設へ適切なタイミングで紹介すべきです。

本講演が細菌性角膜炎、ひいては感染性角膜炎の診断と治療の一助となれば幸いです。